

＝念仏の声を世界に子や孫に＝



小樽別院だより

発行所
小樽市若松1丁目4番17号
本願寺小樽別院
〒047
TEL 0134-22-0744
編集 教重文雄
発行人

小樽に
念仏の
友垣の輪を
ひろめよう

就任にあたって

決意表明

小樽別院輪番

教重文雄

このたび命により小樽別院輪番を拝命し、信州信濃から去る四月二十日赴任致しました「教重文雄」でございます。大役を拝命しましたがもとより浅学非才、未熟者でございますが、ご門徒の皆さま方と共に、当別院に課せられております使命に向って、真摯に努力させていただきます。前任教重文雄様のご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。尚、前任者であります龍澤輪番には去る三月十六日突如、急逝されましたこと、「生死無常」のことわりとなり、人生の厳しさを味ったことです。ただただ合掌礼拝、お念仏を申上げることより言葉ありません。ご遺族の方々に慎しんでお悔み申し上げます。その節、賜りましたご香資、ご

厚情に深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。さて、小樽別院は北海道開教の発祥地であり、本願寺第二十代広如上人によって開基された由緒ある寺院です。私くしの祖父も、叔父も、幾度か別院でのご法座のご縁に会い、また私くしも以前に二度程参上しご法縁に遇わせていただきました。それ故、浅らざる因縁の深さを感じ、いよいよ責任の重さを痛感しておるところです。

明治開教以来今日まで、ご門徒の皆さまの変らぬ、念仏相続、別院発展のために、報恩感謝のご懇念をはこんで下さいますこと、謝念のほかはありません。

昨年はご本山において、第二十四代即如門主の「伝灯奉告法要」が盛儀のうちにとり行われました。その節はご本山団参、並びに法要

龍沢前輪番を悼む

去る三月十六日、五十五歳を一期として急逝された龍沢前輪番のご遺族に悼んでお悔み申し上げます。奥さま、お子さまの悲しみは如何ばかりかと、ご同情申しあげます。輪番就任以来一ケ年にも満たない短かい任期、いろいろ胞負もあり実現を夢みていたことと推察します。

今後は残った方々と念仏相続、別院発展のため努力精進致す覚悟です。どうぞ安養の浄刹からお静かに見守って下さい。さようなら。

懇志の進納にご協賛を賜りましたこと、合せて御礼申し上げます。この世紀の法要終了に当りご門主は、「ご満座のご消息」を發布なされ、吾々門信徒の歩むべき方向をお示し下されたのです。去る一月に小樽別院にて後志管内各寺院住職、寺族、門信徒代表による「ご満座ご消息披露」並びに趣意の説明が行われたとの報告を聞いております。

今後は、「ご消息」並びに「教書」(昭和五十五年四月一日発布)に示された趣意を体して、西本願寺教団が一貫となって、伝道教団としての真価を発揮していくことです。

不安と混迷の現代にあつて、現代人の問を素直に聞き、現代人の求めている根源を見極めながら、自からが浄土真宗の意義と念仏者の責務を果していかなければなりません。

ややもすれば形のみの継承に終っている姿を深く反省し、人びとのふれあいの中で共に苦悩し、共に聞法し、一つひとつ着実になし遂げていくところに、宗祖聖人のお心に沿った、新しい時代に生きる念仏者として力強い歩みが展開されていくことです。

二十一世紀は宗教の時代とも告られております。激動する社会世相の中で、明日を開く宗教、真実の宗教、それは浄土真宗です。不確定の世にあつて、何時でも、何処でも時代を超えて、私しに迫ってきている教えを聞き、共に未来浄土への道を歩かせていただきますように。

合掌

小樽別院だより

五十六年度 事業(伝道)計画について

小樽別院活動に参画を

輪番 教重 文雄

去る十一日開催されました別院総代会においてご提案致しました。昭和五十六年度事業計画案並びに一般会計歳計予算案その他の案件について原案通りで承認を賜りましたことは感謝と喜びに存じます。早速、紙上を通じてお知せを申上げ、より一層のご理解と積極的なご支援をお願いいたします。

初めに、宗門(浄土真宗本願寺派を指す)の方針は「同朋教団の自覚と実践」との目標を踏え、基幹運動を中心に強力な伝道教化活動を推進することにあります。宗門の「方針」にそって、別院の事業計画と目標をかかげたことです。スローガンとして「小樽に念仏の友垣の輪をひろめよう」を合言葉とし、

重点目標として、一、従来からすすめてきた別院事業の見直と点検を行い充実を計っていく。二、宗門が全国一せいに進めている門徒推進員の育成とそれがための連続研修会開催の準備を行っていく。三、伝道組織の充実と拡大を計っていく、即ち幼少年、仏青、仏婦、若婦人、仏壯、講社、総代役員、高令者等の組織の点検と充実を計っていくことです。それがための

各組織に担当を決め活力ある組織づくりを目指していくことです。●各種行事充実と展開 別院の主な年間行事は、元旦会、春秋彼岸会、永代経法要、宗祖聖人降誕会、お盆会、宗祖聖人報恩講である、年々参詣者が少なくなっていく傾向にあるので、ご門徒各位のご理解とご参拝を切に願っています。●月例行事としては、全国各地から布教使を招いて十日間にわたって定例法座を開催していますが、参詣は少く一人でも多くの参詣を願っています。●法要儀式については、必ず関係者が別院に来て葬儀、通夜等の相談を行って、間違のないように取扱いを願います。●新規行事の企画と開催 (一)朝のおまいり(お晨朝)充実と拡大を計っていくことです。現在は七、八名と少く、門徒以外の方でも詣つております。七月一日から「お晨朝百日参拝」を実施する計画です。

おります。(三)日旺、仏教講座の開催、九月第一日旺日に午前九時三十分から十時三十分までの一時間を開催、テキストにそって平易に講義する。(四)別院報(別院だより)並びに法事、盆、報恩講にちなんで随時冊子を編集して発行していきます。以上概要を申上げましたがご門徒一人一人に喜んでいただけたら、尊い教えの宣布に院内職員と共に努力していくことです。別院総代 竹田清治

竹田清治

小樽別院の重苦しい冬も去り、いま春爛漫のすばらしい時期に、教重新輪番様ご赴任いただき、門信徒一同安心と喜びの今日この頃。また、喜ばしい事に今までなかった別院だよりの発刊を手がけていただけた事は、お寺と私共壇家との密接な絆が確保され、別院の動き、門信徒の声が反映され、お念仏の尊い御教えが正しく伝えられる事と思えます。私共壇家は先祖から受け継がれたお念仏の燈火を孫子の末まで伝えてゆかねばならない者にとり、別院だよりは心強いささえになり念仏相続に一段と精進できる事と信じます。

「愛着」

小樽別院仏教壮年会長 小紙文隆

仏教壮年会の例会は毎月六日と定めて継続されているが、この日に約四〇分の正信偈の読経を同行らと大きな声であげることには私は喜びと愛着を感じているもの、一人です。私のよきアドバイザーでもあるK君はこの方面にも何かにつけて熱心ですが仲々こういう機会に接することの少ない私はこの頃殊に楽しみである。皆んなに励まされながら同行友人達に会うこと

や御法話を聞く機会を与へてくれることにも幸福を勿論感じております。年令的にもそうなたんだという人もあるようですが子供頃から別院に通うことが多く誠に幸福者と思えます。即ち聞法の機会を自然の中に与へてくれたこと、親らん聖人の御教を聞いては忘れ、忘れては又聞き或は又忘れて、そして思い出での繰返しを繰り返している。お寺は研修のセンターでもあるし自由に語りあう処でもある。老若男女を問はず之からも教化の場、チャンスと相互に工夫しながら人生の旅を語りあうことに無上の愛着を得るよう努力して参へりたいものであります。 婦人会会長 辻初江

辻初江

私共小樽別院婦人会が発足したのは明治三十八年と聞いて居ります。以来世々代々戦時中など困難な時代もあつたでせうによくぞ立派に引ついで来て下さいました。昨年は創立七十五周年に当り別院のご協力と全員の熱意にはげまされ盛大に祝賀大会を開くことが出来ました。本別院へも映写機一台寄贈させて頂きました。 現在会員数は三三〇人ほどですが別院檀家の数からみると増えはほしいものと念じて居り極力よびかけをいたして居ります。 毎年年初には一月二十七日総会新年親睦会を開き全会員へ年に一度の御あいさつのもつりでも案内状を差上げて年に一度でもお寺へ足を運んで下さる様とよびかけて居ります。

この婦人会が益々盛大に強力なものとなるやう全員一同協力して先人に恥じないやうつとめて後につづく若い世代に残して行きたいと存じます。 合掌

五十六年度 総代会開催

●総代会開催 事業計画並予算案承認 定期総代会は、去る五月十一日、開催され五十五年度歳計中間報告並びに、五十六年度事業計画並びに予算案を審議して全会一致で原案通り承認した。尚、竜沢前輪番の葬儀の経費についても協議を重ね、二十万円を本山の人材養成機関である「教学助成財団」に寄付することを決め、葬儀に係る処理を終えた。

一、昭和五十六年度、本願寺小樽別院一般会計歳計予算案
歳入合計、七〇、二〇、〇〇〇円
歳出合計、七〇、二〇、〇〇〇円
尚、五十五年度と対比して一、三七〇、〇〇〇円の増となっている。

二、昭和五十五年、一般会計歳計予算案についての決算は五月末の「出納閉鎖」を終えて後日発表。

●小樽別院役員名簿作成 別院では要望に沿って役員名簿を作成し、役員宛に届けているが未だ受けとっていない方はお手数でも別院までお申出下さい。

- 顧問、松川嘉太郎、辻井豊作
- 総代、竹田清治、高山隆行
- 長谷川才一、毛利悌雄
- 辻 長吉、高橋米蔵
- 渡辺徳次郎、
- 参与、花本晴二、他二十六名
- 肝煎、石田善久、他三十名
- 世話方、天野律男、他八十五名
- 小樽別院教化団体
- 仏教壮年会、会長 小紙文隆
- 仏教婦人会、会長 辻 初江
- あそか会、会長 宮本みい
- 仏教青年会、 菊地智子
- 小供会、
- 尚、三説教所にて講社活動中。

以上



人の世に 生を受け
るは難く
やがて死すべき身の
いま 生命あるは
有難し

五月晴に恵れ 宗祖聖人「降誕会法要盛大に」

稚児行列を始め賑あう



音楽法要形式による献華、献灯、献香に始まり讃仏歌、園長法話と続いて厳肅のうちに聖人の徳を讃えて終了した。

二十一日は、午前九時から双葉女子学園による音楽法要で始まり万堂をうめつくし余間まであふれた生徒、調和のとれたコーラスとあいまって、各クラス代表の焼香、理事長による「現代人を導く宗祖聖人のみ教え」という内容の法話を聞いて終了した。

宗祖親鸞聖人のお誕生をお祝する降誕会法要は例年通り、二十日、二十一日の二日間にわたってとり行われた。二日間共、五月晴れの好天に恵まれ多数の参詣者で賑わい盛大に催され聖人のご誕生をお祝いした。

まず二十日は本堂で若竹保育園、新光保育園、小樽幼稚園の園児と父兄代表による合同礼拝が行われ、

十二時三十分境内にお稚児さん、別院総代を始め役員、仏壯、仏婦、寺族、法中、その他関係者が集合、雅楽のかなでる中に国道に沿って奥沢十字路左側に歩みをはこんで約三十分の行列を行って本堂正面から上って堂内を一巡して庭儀（おねり）を終了、午後一時から輪番導師による法要が厳肅埋につとまり、正信偈の声は参詣者と共に堂外に響き、聖人の誕生を祝った。法要に続いて、法話「聖人のご誕

生の今日的意味」について輪番から聞き、尊いみ教えに生かされる身の幸せを喜び合って終了した。後始末を終って「聖餐会」に入り関係者がひざを交えて話し合い、語り合って明年を目標としてより一層努力することを誓い合った。その他、展示会、婦人会によるバザーを始め、少年ゲーム大会など関係者の努力によって盛大に催された。

尚、仏教壮年会は降誕会の準備のため会長を始め有志が一貫となつて、本堂外縁を始め境内清掃、テント張り等の奉仕活動を十七日から行い、充実した降誕会の一翼をになつていた。

新しい行事の案内

◆総参拝の実施

別院へ毎月一日、十六日、別院では本山での「伝統奉告法要」を機縁として、平素からより一層、仏縁を深めていただき、親鸞聖人のみ教えに生きるご門徒としての自覚と実践を旨として、来る七月一日から実施します。朝の六時三十分から約一時間のお勤めと短かい法話を内容としております。お仕事に入る前のひととき、別院のご本堂で共にお詣りをして、すがすがしい思いの中へ一日のスタートを切りましょう。一人でも多くの参詣をお待ち致しております。

◆百日参拝のすすめ

七月一日朝詣り

別院では新しい行事として、七月一日から百日参拝を始めます。百日とは聖人のご在世時代、六角堂へ百日参籠、吉水の法然上人をお尋ねになつて百日、いかなる大事があつても「生死いすべき道」を求めて通われた事実になんて実施するものです。お晨朝のひととき、是非ご参詣下さい。百日終了者には記念品をさしあげることです。

◆日旺仏教講座

九月第一、第三日旺

別院では平常、職場の勤務等で仏教のお話を聞く機会の少い方々に日旺のひととき、仏法を聞く縁にふれていただきたく、来る八月第一日旺と第三日旺の午前九時三十分から十時三十分までの一時間、「現代を生かす仏教」をテーマに、わかりやすい講座を開講します。テキストを配布して話し合いの時間も用意します。講師は当面輪番が担当しますのでふるって来聴下さい。

◆募集

仏教壮年会、仏教青年会

別院の伝統豊かな仏教壮年会（小紙会長）並びに仏教青年会では、会活動をより一層活発に展開するため、新たに会員募集を始めました。私達の周囲には驚くほどの豊かな物質があふれています。それなのに、苦悩や怒りの表情をした人が多くなるのはどうしたことでしょうか。このような疑問を手がかりとして、この人生をよりよいものに近づける真実の道を求めることが、仏壯、仏青の課題ではないでしょうか。あなたの入会をお待ちしています。

●恒例の行事案内

別院、定例法座

毎月六日、十六日まで、ただし十二日はお休み、午後一時三十分始り。

●仏教壮年会例会、毎月六日、午後七時より、変更の場合もあり

●あそか会例会、毎月十日、午後七時より

●仏教婦人会例会、毎月二十七日、午後一時三十分より

●説教所から

●緑説教所（梅沢秀頭先生）毎月八日、「無量講」の開催、

●若竹説教所（村上隆昌先生）毎月七日、「彰心会」開催

●六月十四日、若竹保育所の運動会

●他に毎月父母の会を開催している

●奥沢説教所（齊藤義隆先生）毎月「唯信講」を十日に、

●「樹心会」を五日に開催

●新光説教所（高柳廣章）先生 毎月十三日「法友会」開催

●六月七日に保育園運動会を予定している

●小樽幼稚園

●六月二十一日運動会、

●五日、父母の会開催、

●募集

●道南めぐりの旅

●締切迫る

別院独自の計画として、来る六月十九、二十、二十一日の二泊三日の予定で旅行することになり、募集、江差別院にも参拝を予定しております。期日も迫ってきたので急いで申し込んで下さい。費用は一人、三万五千元 以上



草という文字

クサカンムリに早い。冬来たりなば春遠からじ。草は大自然の象ちよう。草は人間を豊かにする、草は大地から萌えいずる新しい芽。

あなたとの対話

人生の問いと答

担当 教重文雄

問、人間は死んだらどうなるのでしょうか (小樽在住婦人)

答、あなたの問は、だれもがいだくもつとも不安です。しかし、それとともに、いまの私しのあり方をほんとうに知って、よりよく生きるということが大切な問題です。

人間は、その人その人の業によって、未来の自分をつくっていく。それはちようど今日の私の行いによって、明日の私を定めていくようなものです。このことについては、お釈迦さまは因果の道理の立場から、私たちに次の言葉をおのこしておられます。すなわち「過去の因を知らんと欲せば、現在の果を見よ。未来の果を知らんと欲せば、現在の因を見よ」と。したがって、死んださきのことはいまの自分の生き方を知ればよくわかるといえましょう。

●本堂屋根瓦修理中

昨年から本年三月にかけて、小樽地方も大雪に見舞れ、本堂の屋根瓦の破損がいちじるしく、現在、田中組によって修復中、瓦は、本州でしか製造されていないため、高岡市へ注文して焼いてもらうため、完成までには期間を要することである。いずれ瓦から、他

別院ご門徒へのお知らせ

一、葬儀について

(一)院号が改定になりました。院号は輪番が手続をへて、ご本山から下附されます。このたびご本山において院号冥加の改定がなされ拾万円以上となりました。従って、別院としても改定を行い、ご本山に拾万円以上、別院に五万円の計拾五万円以上と改定をいたしましたのでご了承願います。

(二)法名冥加

法名は掃敬式(おかみそり)を受けるとご本山から授与されます。但し、受けていない人の場合、葬儀に先立って輪番が代って行います。

2、過去帳掲載

死亡者に関する事項は、別院備付の「過去帳」に必要事項を記載します。必ず届出て下さい。(一)門徒が死亡したときは必ず別院に届出て通夜、葬儀等の打合せを行って下さい。

(二)葬儀の導師は、原則として輪番がこれを勤めます。但し輪番の都合つかぬときは、副輪番が職員が代行します。

二、年間法要について

年間法要を勤める場合はあらかじめ、別院事務所に連絡して年回法要日時を決めて下さい。

三、仏式結婚式の奨励

仏式結婚式はご法儀のさかんな地方ほど多く行われております。是非、別院のご本堂で厳肅に挙

の方策を考えなければならぬとかがくることであらう。

●ご本山ご本堂 修復中

京都の西本願寺では、大規模な修復が阿弥陀堂で行われており、本堂修復協議懇志を広く、ご協力を呼びかけている。一瓦のご懇志金五千円以上ご進納下さった方に、住所と芳名を記録して永く記念する。

行して下さい。

四、初参式の奨励

わが家に子供が誕生した場合、お誕生日前には是非お参りをお初参式を受け人間に生れてきたことへの意義をかみしめ、お礼をしましょう。

五、納骨堂保管冥加について (年間)

- 一号、二号は 三、五〇〇〇円
三号、四号上、四号下 二、五〇〇〇円
五号上、五号中、五号下 二、〇〇〇円
六号上、六号中、六号下 二、〇〇〇円
一時保管は 三、〇〇〇円
霊塔は 一、〇〇〇円

六、永代経懇志について
死亡した方のご命日に追善供養読経を永代にわたって行い冥福を祈ることより始まったが、浄土真宗では、ご命日の読経をご縁として、深く如来のご本願を信ずる念仏者になっていくことへの意がこめられている。上納懇志は正しい信仰者を育てるための教化活動資金となる。

- 七、使用懇志について
●本堂、一〇〇、〇〇〇円
●会館、一〇〇、〇〇〇円
●対面所、一〇〇、〇〇〇円
●法要各室、一〇〇、〇〇〇円
その他
●迎仏冥加、一〇、〇〇〇円
●本堂、一五、〇〇〇円
尚、不明な点は別院事務所へご相談下さい。以上

●別院職員紹介

- 輪番、教重文雄、四十九才、北海道美深町、尊光寺
副輪番、高越静真、三十七才、島根県大田市、真光寺
参勤、高柳広章、四十七才、北海道留萌市、永福寺
参勤、梅沢秀頭、六十四才、北海道空知南組、賢誠寺
参勤、齊藤義隆、四十一才、北海道胆振組、安立寺
参勤、西正美、四十才、北海道札幌組、光顕寺
参任、村上隆昌、二十八才、福井県足羽組、徳勝寺
承任、小松正樹、二十三才、北海道函館組、瑞教寺
承任、甲斐唯良、二十七才、長崎県佐世保組、開蔵寺
承任、高原五郎、高田博美、驚頭千津子、

後記

●降誕会は好天に恵まれ、二日間におわたって執り行われたが関係者の労を多しうたい、いずれの催に下される方々にささえられてこそ開催されることである。ここから感謝したい。
●着任してはや一カ月を終了したが、別院の月例の行事の傾向を知ることができた。いずれの行事も大切である。参詣、参加者の少いのが気がかりだ。
●もっと美しい、感じのよい別院づくりを夢みており、草花を含めてよい花がありましたらご紹介下さい。
●別院とご門徒の絆をより一層結びつけていこうとの願いのもと、ささやかな「別院だより」の編集となった。年に二、三回ぐらいい編集してお届けしようと思う。ご意見を乞う。